

第17回 登別市中小企業地域経済振興協議会 議事録

平成27年5月14日(木) 18時30分～

登別商工会議所 会議室

- ◆出席委員：松山 哲男 会長
齋藤 正史 副会長
小幡 功 委員
藤田 康 委員
吉元 美穂 委員
垣内 登紀子 委員
安達 陽子 委員
千葉 洋子 委員
井上 昭人 委員
計9名

- ◆事務局：商工労政グループ穴戸商工労政・新エネルギー主幹
奥田主査
竹中担当員

- ◆登別商工会議所事務局：田村事務局長

- ◆議題：(1) 地域資源についての共通認識
(2) 今後のスケジュールについて

【要旨】

| 項目 | 発言者 | 内容 |
|-----------------------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(1) 地元資源とその付加価値に係る協議方法について</p> | 会 長 | <p>ご多忙のところお集まり頂き、ありがとうございます。第17回の協議会を開催いたします。</p> |
| | 事務局 (宍戸) | <p>議事に先立ち、事務局の担当者が異動により変更になったため、紹介します。</p> <p>4月1日付け人事異動で商工労政グループに異動になりました宍戸と申します。よろしくお願ひ申し上げます。</p> |
| | 会 長 | <p>協議事項に入る前に、「登別市地域経済実態調査」をご覧いただきたい。これは、北海学園大学経済学部の大貝准教授に実施して頂く調査について、前回皆様からご意見をいただいた内容を盛り込んだ調査票の案である。</p> |
| | 事務局 | <p>これはまだ完成版ではないが、大貝准教授が道内で行ったアンケート調査をベースにしている。ただ、皆様から前回の協議会で頂いたご意見を我々でまとめ、事前に報告しているので、それらが反映された形となっている。</p> |
| | 会 長 | <p>最終的な調査票についての確認は、次回の協議会で取りたいと思っている。</p> <p>では、協議事項に入る。今日の会議の目的として、1. 地元資源とその付加価値に係る取り組みについて、2. 協議会委員外委員の募集等について、3. 今後のスケジュールについての三点について進めていきたい。</p> <p>まず、地元資源とその付加価値に係る協議方法については、市民を対象として実施する地元資源に関するアンケートを行うとともに、協議会内部でも議論を進めていきたい。また、協議会委員以外の方にも協議に参加して頂き、地域資源の再認識及び活用法の協議を行っていきたいと思っている。</p> <p>アンケートについては、自衛隊・市役所・商店街等の計200名程度を対象に実施していきたい。設問は、1. 登別市内にある地域資源はどの</p> |

ようなものがあるとお考えですが、2. その活用方法はどのようなものがあるとお考えですか の2問であるが、地元資源に対する捉え方は人それぞれであると考え、「地元資源」を簡潔に説明した方がよいと思っている。例えば、市内の事業者にはこういう特殊技能がある といった記入例を差し込みたい。

副会長

私たちはこれまで市内経済各分野の従事者からお話を伺い、概ね理解が進んでいると思うが、これから実施しようとしているアンケートの対象となる市民は、それぞれ持っている知識に差があることが予想される。観光雑誌のような知識だけでなく、掘り下げた調査結果が得られるように調査票を工夫していかなければならない。まちの中にある工場でどんな製品を作っているのか、どこの会社に売って利益を得ているのかなど、あまり知られていないことを網にかけられるような設問を作ることができるが良い。

会長

こちら側が望んでいる地域資源を回答者に答えて頂けるような設問作りの工夫が必要であるだろう。一方で、配布先・調査先については、自衛隊・市役所は他の地方から来ている方が多いため、年代別に分けて回答を依頼することとし、商店街関係者からも回答を求めるべきである。他に考えられる依頼先はないだろうか。

協議会の委員の方々が、それぞれ3人ずつ集めてくると、それだけで50人以上になる。委員の皆様にも負担をお掛けしてしまうが、いかがだろうか。

各委員

異議ありません。

藤田委員

調査を行う対象の年齢層は、それぞれの委員の判断で決定して良いだろうか。

会長

差し支えない。

安達委員

人を地域資源と考えた場合、個人名を記入してもらう形にしても差し支えないだろうか。

会長

差し支えない。集計されたデータは外部に公表

(2) 協議会委委員外委員の募集について

| | |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務局 | する予定はないため、具体的に個人名を書き添えていただいている。また、人を取り上げて何かするわけではないが、例えば個人が持っている技術やノウハウを、今後の中小企業活性化及び地域振興に生かそうと考えた時、その方と接触していく方法については慎重に考えていかなければならない。個人となると難しい面も生じてくるため、皆さんのお知恵や繋がりを通じて接触を試みていく必要がある。 |
| 会長 | 今出てきた団体以外に、どこに調査を依頼するかを考えていきたい。 (全体による協議の結果、上記に加え、日本工学院、社会福祉協議会、校長会、登別観光協会、登別商工会議所、登別市議会への依頼を行うこととした。) |
| 会長 | 次の議題に移る。私たち協議会委員の他にも、地元資源に関する意見を出していただくとともに、今後予定している専門部会の立ち上げの際には、その構成員になっていただくことを視野に、協議会に参加していただく方を募集することについてである。前回の協議会の際にもお話ししたが、私たちの取り組みに賛同していただける方を募集したい。依頼したい内容は、地元資源の洗い出し及び付加価値化に対する意見と、それらを踏まえて今後設置する専門部会への参加をお願いしたいと考えている。 |
| 事務局 | 専門部会に参加する方は専門部会委員という取扱いにはなるが、専門部会設置までに参加して頂く段階では、協議会委員に含まれることはない。 |
| 会長 | 専門部会に入って頂くという前提の下、協議に参加してもらおう形になるが、委員としての参加ではなく、協力者のような形での参加となる。 |
| 千葉委員 | 参加をしていただく方は、どのような方を想定しているだろうか。 |
| 会長 | 中小企業・地域経済に対して大きな関心、興味を持っている方をお願いしたいと考えている。 |

| | | |
|------|--|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 安達委員 | | <p>専門部会のテーマはどのようなものが想定されるのだろうか。</p> |
| 会長 | | <p>この協議会の目的が地域経済に向けての方向性・柱についての協議、及び具体的な施策についての提言であるから、具体的なものを打ち出していくためには2つ位のテーマに絞るべきではないかと考えている。</p> |
| 垣内委員 | | <p>かなり時間はかかってしまったが、これまで下準備として行ってきたことを基に、アンケートの活用や専門部会のテーマなどを考え、本格的な協議に入っていくのだろう。</p> |
| 会長 | | <p>その通りである。それでは、最終的に専門部会に入ってもらくべく、各委員が思う参画して頂きたい方への声掛けをお願いしたい。</p> <p>以上で今回の協議を終了します。お疲れ様でした。</p> |